地域でつながり、地域と歩む

十小地域づくりの会のお知らせ

第16回

同じ地域に住む住人同士、お互いを知り合い、地域のことについて話し合う場をつくろう、と清瀬市と清瀬市社会福祉協議会が共催で「十小地域づくりの会」を実施しています。

平成29年9月28日（木）に行われた第16回の会には、地域住民の方、保護者の方、学校職員、民生児童委員、ボランティア従事者、福祉関係者など17名が参加されました。

鶴ヶ島市地域支え合い協議会の視察報告

地域の方6名と市と社協で、9月12日に鶴ヶ島第二小学校を拠点に様々な地域の支え合い活動を行っている「鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会」に視察に行ってきました。視察先で見聞きしたことを全体で共有しました。

◆立ち上げの経緯

- 実際に災害が起こった時、学校に避難してきた時、誰が対応できるのか。行政の対応待ちではなく、自分たちが主体となって動き出す必要がある、と組織づくりが始まった。防災訓練から取り組んでいった。
- 小学校の空き教室を事務所として借りることができている。学校のバックアップもあった。
- 既存の自治会や保護者会などの活動ではできないところを取り組んでいった。

◆現在の取り組み

①防災訓練：避難訓練の他、避難場所の貼りだし、炊き出し訓練、福祉避難所開設訓練等を行っている。500名くらいが参加する。 消防署や医師会なども連携している。

②福祉支え合い活動：一人暮らしの方への訪問、サロン活動、講演会の開催などの活動を行っている。

③子ども委員会：そうめん流しやどろんこ遊びなどのイベントや、観劇、宿題サロン、子育てサロンなどの活動を行っている。隣接する学童クラブとも連携している。

④たすけ合い隊：買い物などちょっとした困りごとを助け合う仕組み。依頼者は「ありがとう券」を購入、協力者は地域振興券として地域のお店で使うことができる。

⑤その他：防災倉庫の管理、会社の所有地の管理業務の受託、広報誌の発行など行っている。

まず何から取り組んでいくか？

視察先の事務局の方から、「まずは一つのものをやるのが良い」というアドバイスもあり、まず取り組んでいく活動を決めることにしました。テーマは「防災」。

- もし、地震が起きたらどうなるのか。支援が必要な人の避難をどう支援できるか。
- 災害時のことは、住民にも福祉施設にも共通の課題。
- 五中にも十小にも、避難所運営組織はまだ立ち上がっていない。
- 備蓄品の保管をするなど福祉施設ができる役割もある。
- 地域づくりの会には参加できていない人も、一緒に取組みができるとよい。などなど

その他、人が集まる場があると問題解決ができることもあるので、いつも集まれる居場所があるとよいといった意見もありました。十小には空き教室はなく、場所を見つけることも課題だという話もありました。

次回は、「防災」をテーマにどのような取組みをしていくか話し合いながら、組織づくりを進めていく予定です。十小地域で安心して暮らしていけるよう、一緒に考えていきましょう。

次回開催は10月31日（火）13：15～　清瀬第十小学校2階けやきにて

どなたでも参加できます！ぜひおいでください！

清瀬市企画部企画課・清瀬市社会福祉協議会